

宇宙科学資料室の現状と課題

宇宙科学資料室の活動とそのねらい

- ・ ISASがこれまでに蓄積してきた資料(文書・画像・映像)のデジタル化
- ・ 検索システムの構築(ソフトウェアはDSpaceを使用)
⇒ 過去のプロジェクトの技術情報に容易にアクセス可能に

貴重な資料の散逸防止

情報の共有化と有効活用

これまでの作業

- ・ 現有する資料(文書・画像・映像)のデジタル化を着実に実施
- ・ DSpaceへの資料の格納方法を確定し、資料の一部を格納済み

全体スケジュール

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	(年度)
宇宙科学資料室WGにおける予備的検討	DSpaceシステム構築							DSpaceシステム本格運用
システムの基本設計を行いDSpaceを採用	映像及び画像データのDSpaceへの格納方法の詳細を検討		所内での限定的試験運用		所内試験運用			
デジタル化作業(文書、画像、映像データ)			デジタルデータのDSpaceへの格納作業					
内外の関連機関への調査 国内関連機関との連携			宇宙科学資料室設置 規程整備 運営委員会設置					
							現有する寄贈資料等の整理 新たな寄贈資料等の受入れ 方針検討	
							順次デジタル化・格納	

今後の課題

- ・ 規程類の整備
- ・ 運営方針について議論する場を設定(運営委員会設置?)

DSpace 初期画面と格納されたデータ例



DSpace 初期画面



ペンシルとベビー(1955)

銅ロケット(1958)



銅ロケット(1963)



おおすみ(1970)



ハレー探査機(1986)



はやぶさ(2007)サンプル採取